

外傷、皮膚潰瘍治療剤

動物用イサロパン<sup>®</sup>

本剤は、患部に直接散布することにより、損傷皮膚組織の修復作用と分泌物の吸着による患部の乾燥化作用により、治癒を促進する外用散剤です。皮膚損傷部に対する刺激が少なく、創面への付着性に優れ、除去も容易な散剤です。

## 成分及び分量

有効成分	アルクロキサ
分量	1g中60mg

## 効能又は効果

犬、猫の外傷、自潰瘍、手術創、皮膚炎に基づく皮膚のびらん・潰瘍

## 用法及び用量

1日1～3回患部に適量を散布する。

## 使用上の注意

(基本的事項)

## 1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- ・本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- ・本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- ・本剤は獣医師の指導の下で使用すること。
- ・外用の抗菌薬を投与している場合は、本剤の使用の是非について獣医師に相談すること。

(犬及び猫に関する注意)

- ・本剤はマーキュロクロム液と併用しないこと。不溶性塩を生じて作用が低下するおそれがある。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・本剤は使用后、ふたをよく締め、高温及び多湿を避けて保管すること。

## 2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。

(犬及び猫に関する注意)

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- ・本剤を犬に大量経口投与した試験で軟便、下痢、体重減少等の症状を認めたことがあるので、そのような症状が出た場合は使用を中止すること。

- ・本剤に含まれるトウモロコシデンブにヨウ素が付着すると紫の着色を生じるので、ポビドンヨードなどの消毒剤を用いる場合には注意すること。
- ・患部が化膿している場合には、あらかじめ適切な処置を行った後使用すること。
- ・本剤は粉末であるので、投与に当たっては治療中患部の観察を十分行うこと。
- ・本剤を散布後、患部を舐めないように必要に応じ保護すること。
- ・汚染を防ぐために、散布の際、容器の先端が患部に触れないように注意すること。
- ・本剤は外用にのみ使用し、経口投与しないこと。

(専門的事項)

相互作用

- ・in vitroで本剤とテトラサイクリン系外用剤との併用によりテトラサイクリン系薬剤の抗菌力の低下が認められているので、併用する場合は注意すること。

薬理学的情報等

(薬効薬理)

本剤の作用機序は、アルクロキサ中のアラントインの線維芽細胞増殖・結合織代謝・血管新生促進作用による肉芽形成促進と表皮再生促進による損傷組織修復促進及び基剤の滲出液吸着作用にあると考えられる。

- 1.ラット背部皮膚の創傷面に対し、本剤を1日2回投与した結果、投与群は無投与群に比べ、治癒日数の短縮が認められた。
- 2.ラットの第三趾部に発現させた褥瘡に対し、本剤を1日2回投与した結果、以下の作用が認められた。
  - ・血管新生促進作用
  - ・創面の乾燥化促進作用
  - ・肉芽形成促進作用
  - ・表皮再生促進作用
  - ・創面縮小作用

包装

25g×6本(ポリエチレン容器)

貯法

室温保存

使用期限

4年



外傷、皮膚潰瘍治療剤

動物用イサロパン<sup>®</sup>

製造販売元

あすかアニマルヘルス株式会社

東京都港区芝浦二丁目5番1号  
TEL. 03-5439-4188 FAX.03-5439-4191



あすかアニマルヘルス株式会社

特長

- ① 外傷、皮膚のびらん・潰瘍の治療に高い有効性を示します。
- ② アルクロキサ中のアラントインが肉芽形成、表皮形成を促進させます。
- ③ 患部に直接散布でき、刺激が少ないです。
- ④ 創面への付着性に優れ、損傷皮膚組織の修復作用と分泌物の吸着により乾燥を早めます。
- ⑤ 患部からの除去も容易です。



薬効薬理

■ 実験的褥瘡治癒促進作用

ラットの第三転子部への持続的加圧により発現させた褥瘡に対し、本剤を1日2回投与し、以下の結果を得ています。

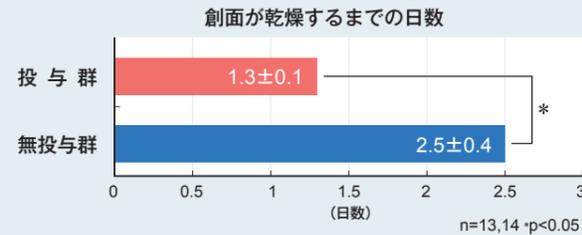
1. 血管新生促進作用

潰瘍底に血管が新生し、潰瘍底の血行が完全に回復するまでの日数は、無投与群の9～10日に比べ、投与群では6～7日と短縮されました。

	回復までの日数
投与群	6～7
無投与群	9～10

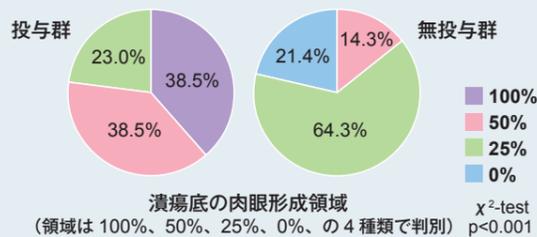
2. 創面乾燥化促進作用

滲出液により湿潤している創面が乾燥するまでの日数は、無投与群の2.5日に比べ、投与群では1.3日と有意に短縮されました。



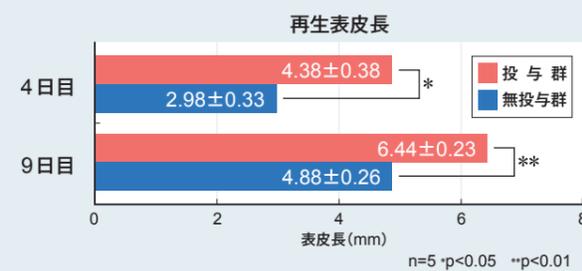
3. 肉芽形成促進作用

潰瘍底における肉芽形成の程度を投与4日目と比較すると、無投与群では大部分の肉芽形成領域が潰瘍底の1/4以下であるのに対し、投与群では症例のうち約1/3例で、潰瘍底が肉芽により完全に覆われていました。



4. 表皮再生促進作用

肉芽組織の上を覆う表皮の長さを、投与4日目および9日目に測定したところ、投与群の再生表皮長は4日目、9日目とも無投与群に比べ大きく、投与群の4日目は無投与群のほぼ9日目に相当していました。



5. 創面縮小作用

褥瘡の創面積は、投与群、無投与群ともに経日的に縮小しますが、治癒までの日数は、投与群は無投与群に比べ有意に短縮されています。



(府川和永 他：応用薬理 23.999.1982)

有効性

犬については、3,504頭中の3,328頭 (95.0%)、猫については、3,526頭中の3,307頭 (93.8%) の症例で有効\*と判定され、いずれの動物においても極めて高い有効率が認められました。

	症例頭数	有効頭数	有効率 (%)
犬	3,504	3,328	95.0
猫	3,526	3,307	93.8
合計	7,030	6,635	94.4

\*有効：有効性の評価は、製造販売承認申請時の評価基準および判定基準に基づいて、臨床獣医師が下した判定により行いました。

1. 臨床試験による有効性 (1989年～1990年)



2. 使用成績調査による有効性 (1991年～1997年)

